

地域の歴史と文化を未来に引き継ぐ

トヨタ紡織

共同実施：加子母森林組合ほか

トヨタ紡織は、自社工場がある岐阜県で「企業との協働による森林づくり」事業の第1号として、中津川市加子母での協定を2008年4月に締結し、森づくりを本格的に開始した。

「木曽ヒノキ」の名産地の加子母は、伊勢神宮式年遷宮材や名古屋城本丸御殿の復元材としても使われる良質な木材を育

む地域だ。同社は企業が地域の歴史と文化を尊重し未来に継いでいくことなどを重視して同地域での森づくりに着手した。

取り組みは社員参加型モデルとして位置付け、休日に社員と家族らが「自分以外の誰かのために」という思いで活動を推進してきた。活動開始直後は、広葉樹11種、針葉樹1種を中心に植栽し、累計植樹本数は4790本を数える。

活動は「森林整備」「環境教育」「交流・体験」から成り立つ。年間計画をもとに、間伐、下草刈り、遊歩道整備を継続。間伐材からベンチを製作、クリーン活動や家族で楽しめる火起こし、釜炊飯など森と暮らし



社員参加型で「森林づくり」活動

を結ぶ学びの場も提供する。さらに、森を中心とした人の輪を広げる活動や自然の循環と資源の有効活用を体験できる場など、森づくりが保全活動としてだけでなく、スポーツ、教育、文化へと広がる取り組みとなっている。



【受賞者コメント】この度は、環境貢献賞に選出いただき、誠にありがとうございます。

弊社は社会貢献活動の一つである「加子母の森づくり活動」を通じて、地域や自治体と協働し地域活性化に取り組んでいます。

未来の子どもたちへ緑のバトンをつなぎ、地域に愛される企業を目指してまいります。

これからもトヨタグループの一員として「自分以外の誰かのために」地域課題の解決に向け、皆さまと共に歩み、成長し続けていきたいと考えております。